

# 第13回 国際地学オリンピック・韓国大会

13<sup>th</sup> International Earth Science Olympiad

韓国：大邱(テグ)



【参加国・地域】

【アジア】アラブ首長国連邦、イスラエル、インド、インドネシア、カザフスタン、韓国、カンボジア、クウェート、スリランカ、タイ、台湾、タジキスタン、中国、トルコ、日本、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン、マカオ、マレーシア、ミャンマー  
 【欧州】イタリア、ウクライナ、エストニア、オーストリア、スペイン、チェコ、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、ペラルーシ、ポルトガル、マケドニア、リトアニア、ルーマニア、ロシア  
 【北中南米】アメリカ、ハイチ、ブラジル【オセアニア】オーストラリア【アフリカ】マラウイ ※初参加

国際地学オリンピックは、世界中の高校生が地球惑星科学についての知識や思考力を競う大会です。メダルを争う筆記・実技試験だけでなく、海外の生徒と協力して行う野外調査など、地学が好きな世界中の仲間と知り合い、交流する絶好の機会でもあります。第13回国際地学オリンピックは、韓国の大邱(テグ)で開催されました。

韓国大会の日程		
日付	大会日数	主な活動
8月26日	1日目	成田から直行便で大邱へ、参加登録
27日	2日目	開会式、仏国寺・石窟庵・大陵苑の見学
28日	3日目	周王山国立公園や美術館の見学
29日	4日目	筆記試験
30日	5日目	実技試験、天体観測会
31日	6日目	国際協力野外調査(ITFI)、地球システム調べ学習(ESP)
9月1日	7日目	ITFI・ESP発表会、交流パーティ
2日	8日目	表彰式・閉会式、大邱市内観光ツアー
3日	9日目	日本へ帰国

## DAY 1 안녕하세요! ようこそ大邱へ

8月26日、日本選手団は昼過ぎの飛行機で大邱へと向かった(P-1)。韓国は近く、成田から2時間あまりで到着した(P-2,3)。



4 日本選手団の到着! 5 開会式にて韓国チームとともに 6 仏国寺の本殿 7 大陵苑で古墳を見学

## DAY 3 「自然が生んだ芸術」と「人が生んだ芸術」

メンターらが問題の検討会議や翻訳作業に追われている中、選手たちはこの日も見学に出かけた。まず世界ジオパークに認定された周王山国立公園を見学した。火山活動に由来する凝灰岩が浸食されて生じた崖は、柱状節理がそそり立つ雄大な景観を生みだしており、選手たちは興味津々に観察していた(P-9)。その後は画家「野松李元佐」の美術館などを見学し、韓国の伝統的な暮らしや芸術作品に触れることができた(P-10)。

忍耐力が大切…!



11 筆記試験の様子(韓国大会公式ページより)



1 期待と不安を胸に韓国へ 2 大邱空港に到着! 3 バスの豪華な内装に驚く

## DAY 2 開会式と世界遺産の見学 メンターらは翻訳! 翻訳! 翻訳!

大会2日目の午前中、本大会のメイン会場であるEXCO会議場のホールにて、開会式が行われた。チームごとに選手たちが旗を掲げながら入場し、紹介された(P-4,5)。ここから試験が終わるまでは選手たちとメンターらは別行程となる。午後からは、選手たちは世界文化遺産の仏国寺などを見学した(P-6,7)。一方、メンターらは筆記試験の検討会議に参加した。その翻訳作業は翌朝4時まで続き、この日はメンターらにとって最もタフな1日であった…(P-8)



8 深夜3時の翻訳作業



9 風光明媚な周王山国立公園(韓国大会公式ページより) 10 横幅48mの水墨画の迫力に圧倒!(韓国大会公式ページより)

## DAY 4 いよいよ本番! ~筆記試験~

この日は午前と午後、それぞれ3時間の筆記試験が行われた(P-11)。水・空気・土・火の各テーマに関連した事柄を分野横断的に問われる形式であった。国際大会では長時間の試験に耐える忍耐力も必要不可欠だ。

## DAY 5 これまで培ってきた観察力を ~実技試験~

屋外での実技試験は琵琶山で行われた。選手たちは岩石や鉱物をよく観察し、自分の知識と結び付けながら解答を導いていった(P-12,13)。屋内での試験では、岩石の密度測定や水質検査などの簡単な実験を行った。選手たちが試験を受ける中、メンターらは見学や国際交流を楽しんだ(P-14)。



12 恐竜の足跡を辿る 13 恐竜の足跡に感動しました!! 14 歩幅を計測する山野選手(右)(韓国大会公式ページより) 15 発表準備ももちろん英会話(韓国大会公式ページより) 16 霧頭を観察する生徒たち(韓国大会公式ページより) 17 本大会では足跡の化石のオンラインレード

## DAY 7 ITFI・ESP発表会、そしてお待ちかねの交流パーティ!

大会7日目の午前中、ITFIの口頭発表とESPのポスター発表が行われた。仲間との会話にもすっかり慣れた選手たち。発表直前まで準備してきた成果をいかに発表し、審査員からの鋭い質問に対しても立派に説明していた(P-20,21,22)。夜はお待ちかねの交流パーティ! 各国が伝統舞踊や音楽で盛り上がる中、日本チームはあの人気キャラクターに扮してダンスを披露した(P-23)。



23 ピカピカビー



24 発表直前、選手たちに緊張が走る… 25 4つ金メダルを獲得! 26 閉会式にて再び韓国チームとともに

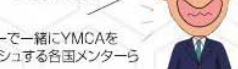


27 西門市場で食べ歩き! 28 インドの偉い先生と記念撮影 29 友達がいっぱいできました!



30 ホテルのロビーで一緒にYMCAを踊ってリフレッシュする各国メンターら

とても楽しく学びのある大会でした!



13 指示をよく聞くことも大切(韓国大会公式ページより) 12 注意深く観察する寺西選手(韓国大会公式ページより) 14 釜淵に舌鼓を打つメンター

## DAY 6 積極性が大事! ~ITFI・ESP~

国際協力野外調査(International Team Field Investigation; ITFI)と地球システム調べ学習(Earth System Project; ESP)は、様々な国や地域の選手からなる混成チームで野外調査と調べ学習を行う、IESOならではの行事である。ITFIでは、恐竜や鳥類の足跡がみられる白亜紀の地層を観察した(P-15,16,17,18)。また、今回のESPのテーマは「台風と気候変動」という日本の得意分野であった。選手たちは英語でやり取りしながら、夜遅くまで発表準備を続けた(P-19)。



20 ITFIの発表をする大野選手(左から3番目)



21 議論に参加する山野選手 22 記念撮影をする山田選手(右端)のチーム

## DAY 8 緊張の結果発表… 午後は大邱市内観光ツアーへ

前夜の熱狂も冷めやらぬまま迎えた閉会式。表彰を目前に控え、選手たちの間に緊張が走る(P-24)。先にESPとITFIの優秀チームが表彰され、寺西選手のチームがESPとITFIで銀メダル、中尾選手のチームがESPで金メダルを獲得した。個人成績では、4選手全員が金メダルを獲得し、ゲスト選手の山田選手も金メダル相当の成績を残した(P-25)。これは日本チームにとって過去最高の成績であり、チーム別順位でも韓国と並び1位と非常に素晴らしい結果になった(P-26)。選手みんな、おめでとう!!

緊張から解かれた選手一行は、閉会式後に大邱市内の観光ツアーに出かけた。教会等の景観を楽しみ、市民の台所である西門市場では食事や買い物を楽しんだ(P-27)。夜は親しくなった仲間との別れを惜しみつつ、写真を撮ったりお土産を交換したりした。選手たちもメンターらも、最後の夜を十分に楽しんだ。(P-28,29,30,31)



31 成田からの帰り道、達成感あふれる(?)選手たち。